

「一燈照隅 万燈照国」

学校長 駒田 勝

78回生の保護者等の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今日まで厳しくも温かくお子様を支えてこられたご家族のお喜びも一入のこととお察し申し上げます。

また、78回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの3年間の努力に敬意を表すると共に、今日の晴れの日を迎えられたことに、心からお祝い申し上げます。

さて、お子様が入学された令和5年度は、コロナの感染法上の扱いが見直され、閉塞感に包まれた学校生活とは徐々に決別する手探りの一年となりました。翌年度の北海道を舞台とした「修学旅行」では、充実した時間を友と共有し、忘れ得ない思い出となったのではないのでしょうか。中でも、希望参加としたトマム山頂の「雲海ツアー」は、早朝集合にもかかわらず、本当に多くの生徒が参加しました。とりわけ、2日目のツアーでは最高の雲海が発生し、下山後に興奮した様子で語る生徒の姿がとても印象的でした。さらには、「昇竜祭」や「体育大会」等々、今ではすべての事が懐かしく思い出されていることと推察致します。

本日、こうして卒業式を迎えることができましたのも、ご家族の皆さまをはじめ、育友会の皆さまの物心両面にわたる温かいご支援等があつてのことと改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ところで、仏教や禅の教えに由来する「一燈照隅」という言葉があります。ご存じのとおり、この言葉は「一燈照隅 万燈照国」などと用いられることが多く、狭義では文字通り「一つの灯りでは限られた範囲しか照らすことができないが、多くの灯りが集まれば国全体をも照らすことができる」というものです。このことから転じて、広義では「自分自身の置かれたその場所で一人ひとりが自分の才能や役割に応じて、全力を尽くすことが社会全体の幸せに繋がる」というところでしょうか。

どうか、卒業生の皆さんには、自らの魅力や才能、可能性を信じ、置かれたその場所で全力を尽くす「一燈」として輝き、ひいては社会全体が遍く光り輝く未来を創造していただきたい。卒業生の皆さんの活躍に期待申し上げます。

最後になりますが、教職員一同、本校の発展に向け引き続き尽力してまいります。どうか、育友会の皆さまには、今後とも変わらぬご理解・ご協力をお願い申し上げます。

令和8年1月14日(水)